

平成30年度 県政運営評価戦略会議（第5回）

1 日 時 平成30年11月19日（月）午後1時30分から午後2時35分まで

2 会 場 県庁10階 大会議室

3 出席者 委員

県

阿部 頼孝 （敬称略。以下同じ。）

手塚 俊明 監察局長

石田 和之

藤本 真路 監察局次長

植田 美恵子

廣瀬 祐史 評価検査課長

加藤 研二

ほか

近藤 明子

坂本 真理子

田村 耕一

鳴滝 貴美子

南波 浩史

久岡 佳代

藤原 学

榎本 久実

（会議次第）

1 開 会

2 議 事

（1）「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について

（2）「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果について

（3）「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考について

3 閉 会

（会議概要）

1 提言書（案）（「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について）の審議及び承認（資料1）

2 提言書（案）（「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果について）の審議及び承認（資料2）

3 「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考（資料3から5まで）

■ 監察局長挨拶

監察局長の手塚でございます。

本日は、第5回の県政運営評価戦略会議に、会長さんをはじめ、委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、御出席いただきまして、本当にありがとうございます。

本日の議事でございますが、まず、「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果につきまして、これまで7月から8月にかけての合計4回の会議を踏まえまして、それぞれ「提言書（案）」として、事務局の方で取りまとめておりますので、御審議をお願いします。

それから、「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考につきましては、委員の皆様方から事前に投票いただいておりますので、その結果等に基づきまして、「優秀提言」、「最優秀提言」の候補の選考を御協議よろしくお願いいたします。

会議の最後には、委員の皆様方の意見交換の時間を設けておりますので、本年度を総括して、忌たんのない御意見を賜りますようお願いを申し上げます。開会の御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

■ 議事

(会長)

それでは、議事に入らせていただきます。皆様、議事進行に御協力のほどよろしくお願いいたします。

まず、議事（1）「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」についての協議をお願いしたいと思います。

夏に開催いたしました戦略会議における行動計画の評価結果等について、資料1のとおり、提言書（案）として取りまとめております。委員の皆様方には、事前に事務局から配付しておりますので、ここでは、その概要を御説明したいと思います。

お手元に資料1を御用意ください。まず、資料1、1ページからでございます。「I 行動計画の評価について」、「1 評価方法について」ですが、ここには、改めて、「評価対象」等をまとめております。

2ページにまいりまして、「2 評価結果について」というところで、我々の評価の結果を表やグラフも用いてまとめております。

一枚めくっていただきまして、3ページから4ページにかけてでございますが、「(2) 基本目標ごとの意見・提言」として、皆様から頂いた主な意見、提言を記載しております。これらの主な意見、提言を含め、夏の会議で委員各位から多数表明いただいた御意見、御提言につきましては、お手元のタブレット端末の提言書・別冊の中で、該当する主要施策の委員意見欄に、特記事項として、それぞれ記載させていただいております。

続きまして、資料1の5ページから6ページでございます。こちらは、「(3) 次期総合計画への反映について」ということで、戦略会議から徳島県総合計画審議会及び県への要望と、皆様からの行動計画全体を通じた総合的な意見、提言を記載しております。

その概略ですが、まずは、徳島県総合計画審議会及び県に向けて、A評価及びB評価が全体の8割を超え、概ね順調に推移してきたことを評価しつつ、数値目標が未達成の部分は厳しく受け止めてもらうとともに、一部の主要事業で進捗が頭打ちとなるなど、課題が見られると指摘し、これまでとは異なる発想、アプローチが必要ではないかと提言した上で、この4年間で得られた成果も課題も材料にして、次期総合計画をしっかりと創り上げてもらいたいと結んでおります。

次に、皆様からの総合的な意見、提言でございますが、次期総合計画を策定する上で念頭に置いてもらいたいという具合にいたしました。

一枚めくっていただきまして、7ページから9ページにかけてでございますが、こちらは第1回会議で採択いたしました「県民からの優れた意見・提言」を改めて掲載しております。

以上、行動計画の提言書（案）の概要でございます。

この内容につきまして、いかがでしょうか。これでよろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、よろしければ、別冊を含む提言書（案）について、この内容で徳島県総合計画審議会に速やかに提言し、次期総合計画の策定作業等の中で御活用いただくこととしたいと思います。

このような取扱いとすることでよろしいでしょうか。

<異議なし>

はい。それでは、そのようにさせていただきます。

続きまして、議事（2）「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果についてに移りたいと思います。

こちらは資料2でございます。こちらにつきましても、委員各位には、事前に事務局から配付しておりますので、ここでは、その概要を御説明したいと思います。

まず、資料2の1ページをお開きください。「1 評価方法について」でございますが、ここには、改めて、「評価対象」等をまとめております。

2ページでは、「2 評価結果について」ということで、評価結果を表やグラフも用いてまとめております。

一枚めくっていただきまして、3ページ「(2) 基本目標ごとの意見・提言」でございますが、こちらには、皆様から頂いた主な意見、提言を記載しております。これらの主な意見、提言を含めて、夏の会議で委員各位から多数表明いただきました御意見、御提言につきましては、お手元のタブレット端末の提言書・別冊の中で、該当する主要事業の委員意見欄に、特記事項として、それぞれ記載させていただいております。

続きまして、資料2の4ページでございますが、「(3) 総合戦略への反映について」ということで、戦略会議から地方創生“挙県一致”協議会及び県への要望と、皆様からの総合戦略全体を通じた総合的な意見、提言を記載しております。

その概要でございますが、まずは、地方創生“挙県一致”協議会及び県に向けて、A評価及びB評価が全体の9割を超え、概ね順調に推移してきたことを評価しつつ、個々の主要事業、数値目標を見ると、詰めの部分の進捗が、なお一進一退の状況であることがうかがわれると指摘した上で、ここから一歩抜け出すためには、行動計画と同様、新たな発想、

異なるアプローチが必要ではなかろうかと提言し、総合戦略を更に進化させ、着実に成果を積み重ねていくことが、「人口減少」、「東京一極集中」の解決につながっていくと思われるので、全庁一丸となって推進してもらいたいと結んでおります。

次に、皆様からの総合的な意見、提言については、総合戦略を推進するに当たって、念頭に置いてもらいたいとしました。

以上、総合戦略の提言書（案）の概要でございます。

この内容でよろしければ、別冊を含む提言書（案）について地方創生“挙県一致”協議会に速やかに提言し、今後の総合戦略の改善見直し作業の中で御検討いただくこととしたいと思います。

このような取扱いとすることでよろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

続きまして、議事（3）「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考を行いたいと思います。

まず、事務局から「表彰に関する要綱」について説明をお願いいたします。

（事務局）

「とくしま目安箱 優秀提言」表彰に関する要綱の説明（資料3）

（会長）

はい。ありがとうございます。

それでは、表彰候補の選考について協議したいと思います。

事前に委員各位にアンケートを実施しておりますので、その結果と、併せて過去の表彰の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）

それでは、資料4「『とくしま目安箱』に寄せられた県民からの優れた意見・提言」を御覧ください。委員の皆様へのアンケートの結果に基づき、一般、若者の部門ごとに、得票が上位のものから順に並べたものでございます。

一般部門の最多得票は「徳島阿波おどり空港へのLCC誘致について」の13票、次のページになりますけれども、若者部門の最多得票は「徳島阿波おどり空港への国際路線の就航について」の11票と、いずれも「徳島阿波おどり空港関係」となっております。

次に、資料5「『とくしま目安箱 優秀提言』表彰 過去の実施状況（参考）」を御覧ください。この表彰につきましては、先ほども申し上げましたとおり平成25年度から実施しておりますが、辞退や匿名希望を除き、昨年度までの5年間で累計9件と、年2件程度を表彰しております。

「最優秀提言」表彰は、これまでに実績がございません。「優秀提言」表彰につきましては、辞退を除きまして、平成25年度の11票のものが、これまでの最多得票でございます。また、これまでの最少得票は6票となっております。このような状況から、資料4につき

ましては、6票以上の3件ずつの票数をお示ししております。

ちなみに、昨年度、最多得票として表彰されたものも「徳島阿波おどり空港関係」でございました。

以上でございます。

(会長)

ただ今、事務局から御説明いただきましたが、今回の選考につきましてはいかがいたしましょうか。

(A委員)

よろしいでしょうか。

(会長)

はい。お願いします。

(A委員)

今、事務局から御説明がありましたとおり、資料5にもありますけれども、これまで表彰対象になったものの最少得票は6票ということになっておりますが、6票となっている年度を見ますと、票数が分散した年度でございますので、今回は、委員14名の半数の支持を得られている「7票以上のもの」としてはいかがかと。今回、「若者部門」が新たに設けられておりますので、7票以上とする場合、一般部門と合わせますと4件と、今までにない数にはなってしまいますが、せっかく若者からも良い意見をもらっておりますので、この4件を候補としてはいかがかと思えます。

半数を超える、つまり、8票以上としてしまいますと、一般部門の第1位、第2位と、若者部門第1位というのは、そのものではないものもありますが、全て「徳島阿波おどり空港」に関わる御意見となっておりますので、7票とすることで多分野にわたって優秀な提言をしていただいたという実績にもなるのかなと思えます。

(会長)

はい。ただいま、A委員からは4件という御提案。7票以上で4件、つまり、一般部門3件と若者部門1件の合わせて4件で、という御提案ですが、いかがでしょうか。もっと多い方が、もっと少ない方が、他の御意見としてはそれぐらいだろうとは思いますが。

それでは、7票以上の4件を優秀提言の表彰候補にしようかと思えますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、「優秀提言」表彰の候補として、以上の4件でございます。一般部門から「徳島阿波おどり空港へのLCC誘致について」、そして「徳島阿波おどり空港やTurn Tableでの藍染め製品販売について」、そして「兵庫県との自動車以外の交通確立について」の3件、若者部門から「徳島阿波おどり空港への国際路線の就航について」の1件の合計4件としたいと思います。

続きまして、「最優秀提言」表彰でございます。この4件の中から更に1件、ということになろうかと思いますが、いかがでしょうか。

事務局からの先ほどの説明ですと、まだ受賞例がないとのことではございますけれども。

(B委員)

はい。

(会長)

はい。お願いします。

(B委員)

一般部門の第1位の「LCC誘致」ですが、13票といえば、辞退を除き、過去に例がないくらいの得票数ですし、次点の「国際路線の就航」、こちらの11票も過去最多と同数で、しかも、今回から力点を置いた若者からの御提言ということで、どちらも「最優秀提言」表彰に値するかと思います。

そこでですね、選考基準の一つである「実現可能性」、これを勘案してみますと、つい最近、県が「国際季節定期便」の就航を初めて実現したとのことで、「徳島ー香港間」だったと思いますが、国際定期便の誘致に非常に目を見張る成果が出ております。

国際線の通年就航も可能性が高まっているのではないのでしょうか。

以上です。

(会長)

はい。B委員からは、国際線も、というところにも触れながら、「実現可能性」ということでしたが、いかがでしょうか。

一般部門の第1位の「LCC誘致」と、若者部門の第1位の「国際路線」というところかと思いますが。どうしても1つにしなければ、というわけではないかもしれませんが、「最優秀」というところで、恐らく、候補としてはこの2つなのだろうと思います。

票数でいえば一般部門の13票が多いわけですが、先ほど、B委員からも「実現可能性」とございましたが、私としても、特に部門を分けているわけですので、票数ではこちらが多いということで比べなくても、若者部門から相応の支持を集めたものと、一般部門から相応の支持を集めたものということかなと思ったりもするのですけれども。

いかがでしょうか。どのように進めましょうか。

(A委員)

よろしいでしょうか。

(会長)

はい。

(A委員)

今、会長からお話ありがとうございましたけれども、部門でしっかりと分けて「最優秀」、「最優秀」とお示しいただけるのでしょうか。でなければ、「最」と書いてあるので、どうかなという気がするのですけれども。

(会長)

部門を分けておりますが、全体として一つに絞れたらより良いのかなとは思いますが。

(A委員)

せっかく部門があるので、それぞれで選んでいただいてもよいのかなと。

でも、示し方によっては、「最」と書いてあるのに2件あるのか、みたいになっても困るので。しっかりと部門は分けてお示しいただけるのかどうかを確認させていただきたいと思います。

(会長)

なるほど。そうですね。「最」なので、やはり、両部門を代表するということだと。いかがでしょうか。それでは、この際、新しく「若者部門」を作ったということもありますし。若者部門の「国際路線の就航」、こちらを「最優秀提言」表彰の候補とするということでもよろしければ。いかがでしょうか。

(C委員)

すみません。

(会長)

はい。どうぞ。

(C委員)

私も、どちらも良い提言だとは思いますが。

ただ、国際線に対応できるような設備を徳島阿波おどり空港に整備した頃から、国際定期便を是非呼びたいということは多くの方が思っていることなので。確かに、期待度が大きいので、若者部門で「国際路線の就航」が第1位になっているわけですが、県も力を入れて進めておりますので、放っておいても県も一生懸命やると思うのですね。ですから、私としては、どちらかと言えば、一般部門の「LCC誘致」の方が。

例えば、関西にインバウンドがたくさん来ているのですけれども、その人たちがほとんど四国に、あるいは徳島に来ていないのですよね。関西まではたくさん人が来ているので、その人たちが利便性を感じながら徳島に来られるように、関西と徳島阿波おどり空港との間で安いLCCの便を飛ばす方が、いきなり外国から定期便を徳島に持ってくるよりも、関西にたくさん来る人の中から徳島に来てもらう方が効果があるように思っています。

どちらかと言えば、私は「LCC誘致」。この文章の中には書かれていないですが、特に、関西から徳島阿波おどり空港に飛ばすLCCを是非やっていただきたいなと思

いますので、私としては、こちらの方を最優秀にしてもよいのではないかなと思います。

(会長)

なるほど。

いかがでしょうか。

(D委員)

それぞれの部門で非常に評価を得ているところですけども、そもそも部門を二つにしましたよね。もし、この会議に要綱を変更する能力があるのであれば、両部門に最優秀提言を1件ずつに。もちろん、最優秀がなければゼロなのですけども。

最優秀提言を1件ずつにはできないのでしょうか。

(会長)

恐らく、特に要綱を変更しなくても、運用上か解釈上か分からないですが、この会議では両方から1件ずつに決めるといいますか。雰囲気を見ていると、甲乙付けがたいというところだと思いますので。

(D委員)

最優秀提言は「両部門通じて1件」と書かれてありますから、1件なのですよね。

一方で、優秀提言は「各部門において1件以上」ですから、やはり、最優秀は要綱上からすると1件なのですよね。

(事務局)

この会議においてですね、部門ごとに最優秀提言候補を挙げるという御決定を頂きましたら、その御決定を尊重して、対応を検討いたします。

(会長)

わかりました。

(D委員)

国際路線というのは、前から言われていることは事実なので。

ただ、なかなか国際路線の定期便というのは実現が難しいのですよね。近隣、アジア圏からすると、例えば、この会議の中でも発言したことがありますけれども、遼寧省の瀋陽ですとか、大連ですね。良い市場ではないかというふうに思いますけれども。

特に、遼寧省、丹東市は、徳島市との、県都との友好都市となりますので、できれば国際路線の就航についてもですね、多くの意見があるのだということをしっかりと受け止めていただいて、近い将来に実現ができるような施策にしていいただいたらよいのではないかなということも含めて、私としては二つ、最優秀ではどうだろうかと思います。

(会長)

恐らく、ここで我々で、「LCC」と「国際路線」のどちらかということ議論を戦わせる必要も…。両方とも優秀な提言として挙げて、県の方で両方頑張っていたらよいのかなと思いますので。

それでは、一つにということではなく、D委員さんのお話もありましたので、両方を、それぞれの部門から「最優秀提言」表彰の候補にということによろしいですか。

〈異議なし〉

それでは、そのようにさせていただくということで、知事にはそのように報告したいと思います。

以上で、本日の議題は全て終了でございます。

しかし、本日は、委員各位にお集まりいただいた貴重な機会でございます。

つきましては、ここからですね、本年度の評価を終えての意見交換の場を持ちたいと思います。6月に実施いたしました「現地視察」についての御意見など、あるいは、来年度も現地視察をするとしたらどういう所がよいだろうかということも含めて。また、夏に行いました評価会議についての御意見など含めまして、何でも。また、そのほか、委員皆様の日頃の活動状況のPR、情報提供などを含めまして、何でも構いませんので、御発言をお願いできればと思います。

もし、よろしければ、お手を挙げていただいた順番でもよいですし。終了時刻は2時半をめどにしておりますので、順番に御意見いただいても、どちらでも構わないのですが。

もしかしら、まずはこのお手元のチラシ、こちらからお話しいただくべきかもしれません。はい。お願いします。

(E委員)

ありがとうございます。

配らせていただいているのでPRをさせていただきたいのですが、私の所属する郷の元氣PNOの方で「かみかつ茅葺き学校」というものをスタートすることになりました。

これは環境省の事業なのですが、八重地という上勝の一番奥の集落で茅葺きの民家を復元したのですけれども、そこを舞台として学校を開催して。

八重地の周辺から材料を採ってきて、八重地の人に教えてもらって復元した茅葺き民家でして、地域にあるもので作り上げたものなのですよね。ですから、京都にあるようなすばらしい建築ではなくて、農家独特の山村の暮らしが体験できる場所なのです。

山村での暮らしの体験を通して、そこにしかない歴史だとか知恵だとか、まだ何とか残っているそういったものを、茅葺き学校を通して伝えていきたいなと思ひまして。

この11月22日から、今年は予備校として体験中心なのですけれども、スタートしようと思っておりますので、この場を借りてPRさせていただきたいと思ひます。

ありがとうございます。

(会長)

ほかに御意見などはよろしいですか。PRだけでよろしいですか。

(E委員)

では、感想なのですけれども。

施策がすごくたくさんあって、網羅的に一気にやっている感じがして。何らか重点的に、深めて、みんなで意見交換するような方法があってもよいのかなと思いました。

(会長)

はい。ありがとうございました。

では、続きまして、いかがでしょうか。はい。

(A委員)

今、御説明いただいたE委員の取組にとっても興味があって、これについて質問なのですけれども。

今は「予備校」になっておりますけれども、今後はどのように展開なさる御予定でしょうか。

(E委員)

そうですね。教材を充実させようとしております。

今年の予備校、現場での体験プログラムもやっているのですけれども、プラス、調査もすごく進んでまして、建築的な価値というところと、暮らしの知恵というところを、今、抽出しているところなのです。そこをしっかりと教材にまとめて、来年度、学校では、教材を理論的に学びながら体験できるという形にブラッシュアップして行って。

今年は、そういった意味での教材が整っていないので、予備校ということにしていると。

(A委員)

エスディージーズ
SDGsの一環で、とてもよい取組だと思います。

でも、すごく寒い時期ですよ。

(E委員)

そうなのです。

でも、昔の人はこの時期にこういったことをしていたということなので。

(A委員)

この時期にしていたのですね。

(E委員)

はい。そうですね。まさに本物体験ですよ。

(A委員)

ありがとうございます。

あと、この会議に関する、私も感想なのですけれども。

特定の委員がいったん評価案を示すのですよね。それに対して、ほかの委員の皆さんか

ら御意見を頂いて、上方又は下方に修正をしていきながら、この会議の考えとして出していくということになっているのですけれども。

もしかして、我々が評価案を作って、それに対して意見を言いづらいというようなことはないのかなと心配で…。いかがでしょうかと、皆さんに伺いたいなと思いました。

(会長)

言いづらくないですか。「事務局案」より、かえって遠慮するのではないかと。「委員案」の方がということですが。

どうなのでしょう。特にそんな…。

(A委員)

プレッシャーをかけているわけではないのです。皆さん仰ってくださっているとは思いますが、どうなのでしょう。少し気になりました。

(F委員)

では、よろしいですか。

(会長)

はい。

(F委員)

ベースを作っているというので、非常に感謝しているというのが私の意見です。それをたたき台にいろいろ議論ができるのかなと思いますので。

かなり大変な苦勞をなさっていると思いますので、その辺は申し訳なく思うところもあるのですが、是非とも、今後も続けていっていただけたらありがたいなと思っております。

それと、感想というか、お願いというか。いろいろ評価シートの数字を、毎年、見せていただくのですが、それが達成できている、できていないというところである程度判断させていただくのがこの会議だと私は思っているのですが、なぜできなかったのかとか、どういう課題があるからここは難しかったのかとか、大本のところをあまり見ていないのかなと最近思っております。ただ、時間的なことで、これだけの分量でそこにフォーカスするのはちょっと難しいのかなとは思っています。

「ここを何とかしたいのです。」というか…。「できませんでした。」という報告もあるとは思いますが、「ここをこうしたいのですけれども、どうにかありませんか。」みたいな形で県の方から提案していただけたら、「こういうことでどうですか。」と、私たちも言いやすいのかなと思いますので。そういった資料などを頂けるようになると、もう少し議論が深まるのかなということ、何か、そういうことを考えていただけたらありがたいかなと思います。

以上です。

(会長)

はい。分かりました。

オフenseとディフェンスのような応酬だけではなく、というところかもしれないですね。一緒に議論ができる、そういう方がよいのかなという御意見だと思います。

ほかにいかがでしょうか。

はい。お願いします。

(B委員)

私は、個人的には、現地視察が非常に勉強になると思っております。

去年は確か神山に行きました。今年は空港、消費者庁の新未来創造オフィス等を見せていただいたりして、非常に勉強になったのですが、今度は、例えば、E委員さんが非常に御活躍をされている上勝ですね、E委員さんの御案内で行くとか。あるいは、木頭も、最近、名前をよく聞きます。それから、県南のきゅうりタウンですね。いろいろ名前を聞くのですが、なかなか。きゅうりタウンは、私、行ったことがあるのですが。上勝も行ったことがあります。木頭はありません。やはり、案内してくれる人がいて、いろんなことを、「実はこういうことをしていますよ。」と説明していただけると、非常に身近に感じることができるので。

来年度は、是非、その辺りを御検討いただいて。楽しみにしていますので。もし、来年度も委員であればですね、お願いします。

(会長)

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。はい。

(G委員)

つい先日、私、西祖谷に行ってまいりまして。農福連携の話と農家民宿の話で行ってきたのですが。

農家民宿の方によると、外国人の方がすごく増えていて、今2万人ぐらいいらっしゃるらしいのです。民宿も。最初に受けたのがオーストラリアの方で、言葉に困ったと。

外国の方がいらっしゃるコースというのが、関空へ来て、京都、奈良へ。そして広島辺りに来て、それから四国へ、祖谷へ入って帰られると。ほぼ、80%以上がそういうパターンのコースらしいです。先ほど、C委員さんが仰ったように、関空とのLCCがあってもよいのかなと。逆コースという感じで。

それと、農福連携も、やはり農業には人手不足という一面がありますし、福祉の方も仕事を探していらっしゃるって、受け入れてくれたらすごくうれしいという話もあるので、そういう面も、今後、県の方で後押ししていただければなと思います。

久しぶりに西祖谷に行ったのですが、徳島県というと、鳴門に来てそのまま帰ってしまう、入り口だけで帰ってしまう観光客も多いので、やはり、奥に引き込むというか。南の方とか、祖谷の方とか、奥の方にまで来てくれないと、その途中、途中でのいろいろな効果もないので。その辺りを私たちが気をつけてというか。

(会長)

はい。ありがとうございます。

こちら側の方にお話しいただいたので、次はそちら側に。はい。

(H委員)

感想なのですけれども、いろんなジャンルでの問題が多すぎて。144施策ということで。どうしても数値目標ばかりに目が行ってしまって、内容が分からない。普段は税理士業なので、例えば、農業のことを言われても…。委員には畑違いの方ばかりいらっしやって。怖くて意見を言えないということでは全然なくて、本当に難しいなあと思いながら、いつも聞かせてもらっています。

数値よりも、もっと内容が前面に出て、こんなふうの実現されているんだと感じられるような会議になればもっとよいのではないかと思います。3年ですかね、委員をやらせてもらって、そう思います。

私自身も、このような県の会議に出させていただくようになって、新しく、農業を、今年の春から農業体験をさせてもらいまして、最近、稲刈りが終わったのですけれども。新しいことに挑戦していかなければならないと思ひまして、12月には中学校へ「税理士による租税教室」に行かせてもらうのですけれども。外へ出て、若者に、自分でも何か訴えていけるものがあつたらんと、この会議に出ることで少し変わったところです。

以上です。

(会長)

分かりました。ありがとうございます。

お願いします。

(I委員)

私は今年で2年目になるのですけれども。私は南の方から来ておりますが、町自体が高齢化、少子化、すごく進んでいるというのが実感です。昼間でも子どもがいないのですよね、町を歩いていても。本当にこんなことで大丈夫なのかなというのが、すごく心配されるのです。

こんなにたくさんの計画を立てられている中で、今後、高齢化、少子化というものが本当に深刻になっていくのかなと。全体にも影響してくるのではないかと思います。

そこで、やはり、県と市町村の行政が一体となって、こういった計画目標も立てていってもらえたらんと強く感じました。よろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございます。

お願いします。

(J委員)

個人的な意見ということで幾つか言わせていただきます。今の計画の評価が来年度、もう1年続くと思いますので、次年度は大きく変わるということはあまりないと思いますけれど、その次の評価がどういう形になるかというところで、少しでも話をさせていただければというところです。

以前の評価方法に比べると、評価対象が大分、ここまで減ってきたというふうには思います。そのおかげで、以前に比べると、AだBだということを議論する部分が少し減って、それよりも、具体的にどのようなことをしているのかとか、もっとこんなことをした方がよいのではないかというような、評価ではない側面を議論する機会が多くなったと思いますので、それは、個人的には非常によいことだなとは思っているのですけれども。

それでも、まだまだ数が多いということからすると、その評価を付すことにウエイトを置いてしまう。評価を付すこともこの会議のメインではあるので。

評価をやめましょうというわけには当然いきませんが、できれば、大分減ってきたとは思いますが、もう少し評価対象を減らしていただくことはできないのかなと。

年によって、今年はこのテーマを議論します、来年はこのテーマを議論しますというやり方もあるとは思いますが、基本的には経年変化といいますか、毎年こういう形で実績値等が変わってきているというデータに基づいた評価ということになりますので、今年の評価するけれども来年は評価しないというわけにはいかないと思います。となると、具体的な県の施策群から標本として取り出す数自体を、もう少し減らすことができればありがたいなと。

そうすれば、こういうテーマで、その中のデータに基づいた議論をしましょうとか、こういうことを行っているということに対して、非常に良いことだとか、いやこれはどうだという議論ができるのではないかと。それが1点。

それともう1点。目標値が出てきますけれども、なぜその数値が出てきたのかというところ。これについてはこちらの会議で決める話ではないので、それに対して意見を言うことはできませんけれども。ただ、その数値がどういう理屈に基づいて出てきたのかということが、やはり分からない。ゼロを100にしましょうということでしたら分かるわけですが、300とか400とか、あるいは1,000という数値が出てきたときに、どういう理屈に基づいて目標値が1,000で、次の年が1,200でというところが。それも、一定の、1次関数に基づいて直線を引けば今年、来年、再来年と一定になるケースと、途中からぐっと上がるケースと、あるいは初年度の目標値が高くて、それ以降は横ばいに近いケースと。非線形になる場合も当然ありますけれども。その辺がなかなかこの会議では分からない。

当然、目標値を立てる会議の方では考えていらっしゃると思いますので、できれば、なぜ、こういう数値が出てきたのかという理由を評価シートに書いていただけると、評価する立場からしても、この目標値に対してこの実績値、そのギャップというところが。努力されているのは非常に分かるけれどもなかなかのだなとか、全然駄目だとか、あるいは、達成されているけれどもまだまだだというような、もう少し突っ込んだ議論ができるかと思っております。

是非とも、なぜその数値が目標値として設定されているかというところを、少しでも記述していただくとありがたいなと。これは要望であります。

以上であります。

(会長)

はい。ありがとうございます。

では、K委員。お願いいたします。

(K委員)

私は、視察もまだ参加できていないので、今後、また、機会があれば行けたらよいかなとは思いますが、申し訳ないですけれども、月の初日などは漁を休まないのです。ほとんど出ていくのですね。1日目から仕事を休んではいけないとか、お金も使ってはいけないという言い習わしがありますので。すみませんが、そこはお含みいただければと思います。

あと、本当に皆さん、県の方も、膨大な資料ですのですね。作るのも大変かと思ひまして、本当に御苦勞様と思っておりますが、実際のところ、なかなか目を通せません。たくさん資料を頂くのですけれども、見るところといえば、自分に関わる、私であれば水産のところだけしか見ることができないのです。

実際に会議に参加して、いろいろほかの職業の方の話を聞いて、なるほどと思って、勉強することがあって。そして、それをまた職場に持って帰って、山の方ではこういうことらしいという話もする中で、いろいろ共有したりもできるかと思うのですけれども。

やはり、皆さん仰るように、なぜ、どうしてという、中身のことが。文字の上だけでは見えていないこともありますので、それをもう少し掘り下げて。

大まかなことでもよいのですけれども。全部というのは絶対無理だと思うのです。あの膨大な資料を精査するというのは。もう少し絞って、これはというものを分かりやすく議論できたらよいのではないかと思います。

本当に御苦勞様です。ありがとうございます。

(会長)

はい。ありがとうございます。

では、D委員さん。

最後お願いしてもよろしいですか。その後。C委員さん。順番を決めてしまいました。

(D委員)

県と市町村の連携ということは、この間もずっと言われてきておまして、この会議でも市町村から上がってくる数字が随分あったりして、連携は取れているのだと思います。

ただ、今の行政システムからすると、縦割り行政が非常に強くてですね。この間も、例えば、徳島市の文化ホールの問題で、マスコミの方から、もう少し県と市が連携を取れば用地の問題なども解決するのではないかとと言われておりました。

また、私の家の近くに水路がたくさんありまして、特定外来生物、植物が、やはり、まん延をしている状態があって。県が一所懸命、ナガエツルノゲイトウですかね、水草、これはものすごく繁殖力があるので。県の管轄の所はしっかりと駆除するのだけれども、結局、用水路は市町村なのですよね。先だっては県の方がおいでたので、ここまで駆除しないと、用水路から県の管轄の所へ流れて行ってまたそこで繁殖をしてというイタチごっこ

が3, 4年続いてますと言うと、県の方も御存じで、そうなのですよ。

ここは、やはり、縣市連携をとって何とか解決できないのかなという話をすると、担当者は「やりたい」とおっしゃるのですけれども。ただ、縦割り行政で、県の管轄はここまです。市の管轄はここからで、指導することはできるのだけれども、県が予算を付けてということはできないということで。本当にイタチごっこになっている状態がありまして。防災上も含めて、排水機場で水草が詰まったりとかですね。以前、ホテイアオイでそういうことがあって、駆除したということでもありますけれども。

そういった具体的な県、市町村の協調、連携といいますかね。そういうものが少しでも評価シートの市町村との連携のところでは見えるような形でね、出していただいたら。

いずれにしても、県は県でしっかりやっている、市町村は市町村でやっているという段階になってきますと、次は、住民はそういうところも求めていると思いますので、そういう評価項目も加えたらどうかなと思いました。

以上です。

(会長)

はい。ありがとうございます。

では、C委員さん、お願いします。

(C委員)

直接評価とは関係ないかもしれないのですけれども、県がいろいろ行っていらっしゃる具体的な施策の一つに、県が今力を入れていること、県の魅力を発信するために、いろんな動画を作っているんですね。それぞれ見てみると、すごく出来が良くて。特に若い人には、やはり、映像で訴えていくことが非常に重要で、みんながすごいなと思う映像で発信すれば魅力も広がっていくので。ですから、県が作っているそういう動画の「再生回数」がどうなっているのかも一度知りたいのです。

徳島を活性化するためには、地元の人が本当に「徳島に住んでよかったな」と思える必要があります。県が作っているいろんな動画はですね、小学生、中学生、高校生とか、大学生もそうですけれども、若い人に見せれば「徳島ってすごいな」と思ってもらえるようなものが結構多いのですよね。そういう人たちには、恐らく、あまり見てもらえていないのだと思うのですよ。これは、教育委員会との連携の問題もあるのですけれども、地元の学校とかで、若い人たちに映像を、なるべく授業の中でどこか時間を取って見てもらうと。そういうようなことも、せっかく作った動画の有効活用という点では、非常に重要なのではないかと考えておりますので。

外に向けて発信するだけではなくて、徳島に住んでいる人たちに、せっかく作った動画を見てもらう機会を増やす方向で考えられたらよいのではないかと思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。

一通りお伺いできました。そのほか、まだ何かありますでしょうか。言い残したことはございませんでしょうか。

それでは、これにて意見交換を終了したいと思います。

最後に、提言書の取扱い等につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

本日、御承認いただきました提言書、「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」につきましては、別冊の評価シートと併せまして、本日付けで徳島県総合計画審議会に提出させていただきます。

また、「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果につきましても、別冊の評価シートと併せまして、地方創生“挙県一致”協議会に、本日付けで提出させていただきますと思います。

さらに、「とくしま目安箱 優秀提言」表彰につきましては、御選考いただきました結果を知事に報告するとともに、今後、表彰式の開催に向けまして、準備を進めてまいります。

次に、今回の戦略会議でございますが、次年度となる予定になっております。現在、徳島県総合計画審議会と県におきまして、次年度スタートします次期総合計画の策定作業中でもあります。例年3月の戦略会議で、担当部局から提言書の反映状況等を御報告いただくのですが、次期総合計画の完成が次年度の6月以降になりますので、3月の会議は、今回、見送る予定でございます。

皆様の現在の御任期が、平成最後の日、平成31年4月30日までとなっておりますので、今回は、新たな元号の下で、新たな任期での集まりになるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

昨年同様、「現地視察」と「第1回会議」を併せて行う可能性もございますが、詳細は、今後、会長と相談させていただければと思っております。

最後になりますけれども、本日の会議録につきましては、事務局で取りまとめまして、会長に御確認いただいた上で、県ホームページ等で公表させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは、以上でございます。

(会長)

以上、事務局から御説明がありましたが、そのようにするというところでよろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、そのようにさせていただきます。

以上をもちまして、本日の議事を終わらせていただきます。議事の進行に御協力いただき、ありがとうございました。

マイクをお返しします。

■監察局長挨拶

本年度最後の戦略会議を終えるに当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

会長さんをはじめ、委員の皆様方におかれましては、6月の現地視察、そして、7月の

第1回から本日まで、5回の会議におきまして、県政各般にわたる事業評価を行っていただくとともに、また、有意義な御提言を多数頂きまして、先ほど、提言書としておまとめいただきました。本当にありがとうございました。

提言書、そして、先ほど頂きました御意見等につきましては、今後の県政運営に反映されるよう、庁内各部局に十分働きかけてまいりたいと考えております。

また、先ほど、当会議のことにつきましても御意見を頂きました。しっかり検討いたしまして、できるものにつきましては、次年度以降の運営の方に反映してまいりたいと考えております。

皆様の御任期につきましては、来年4月末日、平成最後の日まででございますけれども、できますれば、新しい元号の下でも、引き続き、当会議の委員をお引き受けくださいますようお願いいたします。

最後になりますが、委員の皆様の御健康とますますの御活躍を祈念いたしますとともに、また、それぞれの立場から、徳島の「創生」、「元気づくり」に御尽力、御協力賜りますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。